

大会長講演

歯科健診からみえる生活習慣病

松本歯科大学病院 健診センター

川原 一郎

新型コロナウイルス感染症のパンデミックに見舞われ、我々は改めて感染症の社会に対する影響力の大きさを認識しています。新たに感染者が生じる一方で、大多数の非感染者は、感染症対策によって生活習慣に甚大な制限を課されています。公衆衛生として感染症対策による新たな疾患の発生には注意が必要で、生活習慣病対策と感染症対策の両立を考えることが必要な時勢になっています。さて、私が勤務する松本歯科大学病院では、従来より一次予防に重点を置いた「健診」に力を入れてきました。一般健診に「歯科」を付加させた「歯科ドック健診」は、時間的な利便性もあって年々受診者数が増加しています。

今回の第 16 回信州公衆衛生学会総会の大会長講演として、本院の歯科ドック健診の状況を紹介しながら、「歯科健診のすゝめ」を訴えたいと思います。

最近の健診は、「疾病の発見」はもとより、発症前の「リスクの発見」に重点を置いた検査が多く行われるようになってきました。歯科疾患も「宿主」「病原」「環境」のそれぞれの発症因子の中にあるリスクを見つけることで、改善できそうなリスクにアプローチする健診後の措置へつなげていくことを目的としています。「歯科健診」で見つかったリスク改善の多くは、生活習慣の見直しから始まります。他の生活習慣病のリスク改善に比べて、歯科疾患のリスク改善は「目に見える」ことが多くあります。このことが受診者の生活習慣改善のモチベーションとして強く働き、結果的に健診の効果が長期間維持されることがわかってきました。また、糖尿病、動脈硬化などの生活習慣病は、歯科に関連した管理が重要であることも知られています。歯科の生活習慣改善が、全身に好影響を与えることが期待できます。しかしながら、歯科健診は、公費、医療保険、自費などいくつかの種類がありますが、どれもまだ低調な受診率に留まっています。歯科健診の有用性が広く認識され、受診率を向上させることで、住民の健康増進に繋げていくことが重要だと考えています。

川原 一郎（かわはら いちろう） 略歴

- 1992 年 松本歯科大学卒業
- 1995 年 新潟大学大学院修了 博士(歯学)取得
- 1996～1998 年 日本学術振興会特別研究員
- 1999 年 松本歯科大学総合歯科医学研究所 助手
- 2014 年 松本歯科大学公衆衛生学講座 教授
- 2019 年 松本歯科大学病院 初診室科長
- 2021 年 松本歯科大学病院 健診センター歯科ドック担当

— メ モ —